

令和7年度高齢者インフルエンザ予防接種のお知らせ

【下記の文章をよく読み、理解してから、体調のよいときに接種してください】

この予防接種は、ご本人が接種を希望する場合に限り接種することができます。

接種を受ける義務はなく、接種を希望されない方は、原則として予防接種をする必要はありません。

実施期間 令和7（2025）年10月1日（水）から

令和8（2026）年1月31日（土）まで

対象者 ① 接種日現在、足立区に住民登録のある65歳以上の方
② 接種日現在、足立区に住民登録のある60歳以上65歳未満で
心臓、腎臓、呼吸器の機能、又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫
の機能に障がい有する方（身体障害者手帳1級相当）

※ 予防接種法上、誕生日が来て対象年齢（60歳または65歳）になる方は
誕生日の前日から接種が可能となります。それより早く接種をしたい方は、
別紙「10月2日現在59歳または64歳の方へ」をご確認ください。

※ 令和8年1月2日以降に対象年齢を迎える方は定期接種の対象外です。

接種費用 無料

接種場所 別紙『令和7年度高齢者インフルエンザ予防接種指定医療機関名簿』
のとおり

※ ①、②に該当の方は、東京23区の指定医療機関でも接種できます。他区
の医療機関での接種を希望される方は、その医療機関が所在区の指定医療機
関かどうか事前にご確認ください。

59歳、64歳の方が接種できるのは、区内の医療機関に限られます。

※ 医療機関によっては接種を行う曜日・時間を決めている場合や、ワクチン
の在庫が不足している場合、予約等が必要な場合、かかりつけの方のみ受け
付けている場合、年度途中に変更がある場合等があります。必ず事前に医療
機関へ確認してください。

接種方法 接種日当日に『令和7年度高齢者インフルエンザ予防接種予診票』の
太枠内を記入し、指定医療機関へお持ちください。

※ 麻痺や正確な意思の確認が難しいなどにより、接種を受ける本人が希望書に署名できない場合には、
家族やかかりつけ医によって、特に慎重に本人の接種意思の確認をした上で、接種適応を決定する必
要があります（最終的に確認ができなかった場合には、予防接種法に基づく接種はできません）。

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫（ひまつ）と共に放出さ
れたウイルスを、のどや鼻から吸い込むことによって感染します（これを「飛沫感染」といいます）。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛などで、のどの痛み・咳・鼻水な
どもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。また、気管支炎や肺炎などを合併し、
重症化する可能性もあります。

インフルエンザの予防

流行しているときは、なるべく人ごみを避けましょう。常日ごろから十分な栄養や休息をとることも大事
です。また、インフルエンザ感染の広がりには空気の乾燥が関連しています。室内では加湿器などを使って
加湿しましょう。外出時のマスクや帰宅時のうがい・手洗いは、普通のかぜの予防と併せておすすめです。

予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意事項

インフルエンザの予防接種について、このお知らせをよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に相談しましょう。十分に納得できない場合には、接種を見合わせてください。

予診票は接種する医師にとって予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が、責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（通常、 37.5°C を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性があるため、その日は接種を見合わせるのが原則です。
- ③ インフルエンザワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことが明らかな人
「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、発汗・顔が急にはれる・全身にひどいじんましんが出る・吐き気・嘔吐（おうと）・声が出にくい・息が苦しいなどの症状に続き、血圧低下など、ショック症状を呈する反応です。
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合
上記①～③に該当しなくても医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

(3) 予防接種を受ける際に、担当医と相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有することが明らかな人
- ② 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ③ 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する人
- ⑤ 過去にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱・発疹・じんましんなどアレルギーを思わせる異常がみられた人

(4) 新型コロナワクチン等との同時接種及び接種間隔

新型コロナワクチンとの同時接種は医師が特に必要と認めた場合に可能です。また、肺炎球菌ワクチンをはじめとする他のワクチンとの同時接種や接種間隔に制限はありません。

接種後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② ワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射したところを強くこすことはやめましょう。いつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。

予防接種の副反応

予防接種の注射の痕が赤くなったり、腫れたり、痛んだりすることや、発熱・悪寒・頭痛・全身のだるさなどがみられることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。それらの症状がひどかったり、長引いたりする時は、医師（医療機関）の診察を受けてください。

◆ 問い合わせ先 ◆

お問い合わせコールあだち 3880-0039

午前8時～午後8時まで（1月1日～3日を除く毎日）

足立区 保健予防課 予防接種係 TEL 3880-5094